

令和8年度「品川区学力定着度調査」の結果から 明らかになった課題と学力向上に向けた取組

「品川区学力定着度調査」の趣旨

- (1)学習指導要領に示された教科の目標や内容の実現状況を把握し、教育課程や指導方法等に関わる区の課題を明確にすることで、その充実・改善を図るとともに、区の教育施策に生かす。
- (2)各学校は、教育課程や指導方法に関わる自校の課題・解決策を明確にするとともに、調査結果を経年で把握することで、児童・生徒一人一人の学力の向上を図る。
- (3)区民に対し、区立学校における児童・生徒の学力等の状況について、広く理解を求める。

1 調査日 令和8年4月14日（火）

2 調査対象 品川区立学校 第2～9学年の全児童・生徒

3 調査内容

教科に関する調査

→ 調査の趣旨に基づき、学習指導要領に定める内容について、基礎・基本および活用の力を測る問題で構成

<第2・3学年> 国語、算数

<第4～5学年> 国語、社会、算数、理科

<第6学年> 国語、社会、算数、理科、英語

<第7～9学年> 国語、社会、数学、理科、英語

品川区立城南小学校

国語

1 定着状況についての概要 *基礎・活用の正答率

		2年生	3年生	4年生	5年生	6年生
基礎	本校	87.8	90.1	79.7	81.2	75.2
	区	85.2	85.3	77.7	75.2	75.5
	全国	81.1	81.0	74.6	70.3	66.3
活用	本校	70.0	75.8	70.1	73.8	60.1
	区	65.9	64.0	67.3	65.7	61.8
	全国	58.6	57.8	61.2	56.9	50.5

2 具体的な課題

学年	全国・区平均より低かった領域またはもっと伸ばせる領域
2年生	説明文を読み取る・聞いたことをもとに話をする
3年生	おれいの手紙を書く
4年生	文章を書く
5年生	言葉の学習
6年生	文章を書く

3 課題の原因として考えられること

学年	課題の原因として考えられること
2年生	事柄の順序などを考えながら、内容の大体を捉えることができない。 自分が聞きたいことを落とさないように聞くことができない。
3年生	語と語や文と文との続き方に注意しながら文章を書くことができない。
4年生	相手や目的を意識して伝えたいことが明確にできない。 自分の考えを言語化できない。
5年生	修飾語がどの言葉にかかっているのかを捉え、被修飾語の違いによって連体修飾語と連用修飾語を区別することができない。
6年生	第5学年に配当されている漢字を正しく読んだり書いたりすることができない。 目的や意図に応じて伝えたいことを明確にし、文章全体の構成を考えて書くことができない。

4 課題解決のための方策

学年	課題解決のための方策
2年生	・聞くポイントを示して、尋ねたり応答したりを少人数で話し合う活動をする。 ・図書室等を利用し、図鑑や科学的なことについて書いた本を読み、分かったことをまとめる活動をする。 ・文章の内容と自分の体験を結び付けて、感想をもつ活動をする。
3年生	・文章に触れる機会を増やし、読解力を向上させていく。 ・作文との連携(作文後に主語、述語チェック、友達同士でチェック) ・文の構造を可視化する指導を行う。(主語と述語に色付け、文の構造を示すなど)
4年生	・伝えるべきことを意識しながら、文章を書くことを繰り返し指導する。 (初めに目的を書き、次に理由を書く等) ・自分の考えを言語化する活動を増やす。(日記を書く、1分間スピーチを行う等)
5年生	・まとめや振り返りの文を書かせる中で、主語と述語のねじれがないように指導する。 ・日常の発言や文章づくりの中で、言葉を詳しくする活動を取り入れる。
6年生	・まとめのテストだけではなく、漢字の小テストを適宜行ったり、家庭学習に漢字練習を取り入れる。 ・社会科や理科等においても、自分の考えを文章でまとめる活動を積極的に設定する。

社会

1 定着状況についての概要 *基礎・活用の正答率

		2年生	3年生	4年生	5年生	6年生
基礎	本校			77.6	81.6	76.3
	区			74.6	75.3	75.3
	全国			71.5	69.7	68.8
活用	本校			59.9	69.0	69.6
	区			54.7	63.3	71.3
	全国			49.9	58.0	65.1

2 具体的な課題

学年	全国・区平均より低かった領域またはもっと伸ばせる領域
2年生	
3年生	
4年生	市の様子、くらしの移り変わり
5年生	都道府県の様子、くらしをささえる水、先人の働き
6年生	日本の水産業、情報を生かした産業、自然環境と国民生活

3 課題の原因として考えられること

学年	課題の原因として考えられること
2年生	
3年生	
4年生	知識の習熟が不十分。地図記号や昔の道具について正しく覚えることができていない。
5年生	資料を基に、自分の考えを表現する力が不十分。
6年生	資料の読み取りが不十分。自分の考えを書くことができていない。

4 課題解決のための方策

学年	課題解決のための方策
2年生	
3年生	
4年生	・繰り返したしかめのテストなどを行うことによって知識の習熟を図る。 ・課題解決型の授業を通して、児童に自ら知識を得る経験をさせることで、より深い理解や知識の獲得をねらう。
5年生	・資料から分かることをキーワードや短文で整理する活動を取り入れる。 ・表現の型を示し、自分の考えをまとめやすくする。 ・話し合いを通して、多様な考えに触れながら表現する経験を積ませる。
6年生	・グラフではない資料の読み取りを丁寧に行う。 ・資料をから読み取ったところから自分の考えを書くことができるようにする。 ・適切な資料は何かを考えながら資料を選ぶことができるようにする。

算数

1 定着状況についての概要 *基礎・活用の正答率

		2年生	3年生	4年生	5年生	6年生
基礎	本校	89.2	88.4	86.4	76.9	78.2
	区	84.4	81.4	81.3	70.9	78.2
	全国	80.7	77.8	75.8	64.4	69.5
活用	本校	80.2	77.6	74.4	69.6	66.7
	区	73.6	67.5	69.1	62.9	66.2
	全国	67.3	62.8	60.4	56.0	53.2

2 具体的な課題

学年	全国・区平均より低かった領域またはもっと伸ばせる領域
2年生	たし算の文章問題
3年生	たし算・ひき算の文章問題、長さやかさの単位換算
4年生	長さ・重さ
5年生	面積、いろいろな形
6年生	多角形と円・合同、面積、比例・単位量あたりの大きさ

3 課題の原因として考えられること

学年	課題の原因として考えられること
2年生	異種の量の文章問題を図に表すことができない。
3年生	式を見てどのような状況なのか想像できない。単位の間隔を把握できていない。
4年生	距離と道のりの違いについて理解できていない。
5年生	およその面積が推測できていない。作図の仕方が理解できていない。
6年生	公式を覚えていない。何を基にするのかの理解が不十分。

4 課題解決のための方策

学年	課題解決のための方策
2年生	- 文章に書かれている数値の中で、問題解決に必要な数値を見つけて線を引く。 - 文章に書かれている数量関係を読み取り、絵や図に表す学習を繰り返す。 - 問題文の中の言葉と図と式を関連させて説明する指導をする。
3年生	- 加減乗除が入り混じった文章題を解き、式の説明をできるようにする。 - 単位換算の練習を繰り返し行う。日常生活において意識して取り上げる。 - 単位を記号として捉えるのではなく、量感をもって理解できるようにする。
4年生	- 実際に歩いたりひもやテープで測ったりする活動を通して、距離と道のりの違いを体験的に理解させる。 - 身近な場面と関連付けながら繰り返し確認し、長さの理解を深めていく。
5年生	- 実物や方眼紙を用いた具体的な操作活動を通して、量感や図形感覚を育てる。 - 作図の手順を図や色分けで視覚的に示し、見通しをもって取り組めるように支援する。
6年生	- 公式の仕組みを理解させる。 - 公式をしっかりと覚えるように、既習事項の復習をしっかりと行う。 - 文章をよく読み、何を基にするのかを把握させる。

理科

1 定着状況についての概要 *基礎・活用の正答率

		2年生	3年生	4年生	5年生	6年生
基礎	本校			74.6	72.5	66.6
	区			69.6	68.7	66.4
	全国			66.4	67.7	64.0
活用	本校			65.8	51.4	51.6
	区			58.0	44.0	50.7
	全国			55.3	42.0	46.5

2 具体的な課題

学年	全国・区平均より低かった領域またはもっと伸ばせる領域
2年生	
3年生	
4年生	生命・地球(身近な自然の観察)物質・エネルギー(風やゴムの働き、電気の通り道)
5年生	生命・地球(1年間の動物の様子、自然の中の水)物質・エネルギー(物の体積と温度)
6年生	生命・地球(天気の変化、植物の発芽と成長)物質・エネルギー(電流の働き)

3 課題の原因として考えられること

学年	課題の原因として考えられること
2年生	
3年生	
4年生	実験(観察)器具の使用方法の理解と体験時間と回数。具体物の操作。
5年生	自然現象を実際に体験するための時間と回数。正しい言葉での表現。(予想や結果、考察。)
6年生	変化する状況から結果を推測するための時間と回数。正しい言葉での表現。(予想や結果、考察。)

4 課題解決のための方策

学年	課題解決のための方策
2年生	
3年生	
4年生	・虫眼鏡や方位磁針等の取り扱い方法を指導し体験する時間を増やす。 ・生物が環境と密接に関わって生きていることに気付くため自然の観察を増やす。 ・物質等を比べる実験において実験対象物や操作する時間を増やす。
5年生	・季節ごとに自然観察を行う回数を増やす。(観察するポイントを絞る。) ・自然現象(結露等)を実験で体験、観察する時間を増やす。(1人1実験。) ・予想や結果、考察を曖昧な言葉ではなく、より詳細な言葉で説明できるよう取り組む。
6年生	・現象が起きている原因を理解し、そこから予想できることを正しい言葉で表現できるよう取り組む。 ・現象(通電すると電磁石になる等)を体験、観察する時間を増やす。(1人1実験。) ・結果から結論を導くための思考を身に付けるために、考察する時間を確保する。

英語

1 定着状況についての概要 *基礎・活用の正答率

		2年生	3年生	4年生	5年生	6年生
基礎	本校					88.9
	区					87.8
	全国					82.7
活用	本校					77.8
	区					78.8
	全国					74.5

2 具体的な課題

学年	全国・区平均より低かった領域または、もっと伸ばせる領域
2年生	
3年生	
4年生	
5年生	
6年生	アルファベットの書き取り、英文の完成

3 課題の原因として考えられること

学年	課題の原因として考えられること
2年生	
3年生	
4年生	
5年生	
6年生	アルファベットを全て書くことができない。簡単な文章の理解ができていない。

4 課題解決のための方策

学年	課題解決のための方策
2年生	
3年生	
4年生	
5年生	
6年生	・適宜、アルファベットの大文字・小文字の書き取りを行い、定着を図る。 ・簡単な文章を発音させ、理解を深めさせる。 ・簡単な単語を日常的に発音させ、資料から見付け出せるようにする。